

I 地形・歴史 Topography & History

1 地形等

市の南部に位置し、南東を勿来地区と北茨城市、西北を鮫川村と古殿町に接している。地勢は一般に急峻で山岳が全体に連なり、起伏が多く、平地は鮫川・荷路夫川・四時川とその支流の流域にあるが、耕地は極めて少ない。春の新緑、秋の紅葉と山菜宝庫の中に「田人おふくろの宿」がある。

2 歴史

中世は岩城氏の所領(文禄4年の岩城領検地には、黒田村、旅人村、大平村、高松村の石高記載)。

関ヶ原の戦の後、慶長7年(1602)磐城平藩主に鳥居氏が入封し、当地区(黒田、旅人、大平、貝泊、荷路夫)もその支配下に置かれる。元和8年(1622)窪田藩の成立で土方氏の所領になるが、貞享元年(1684)窪田藩除封廃藩により幕府領になり、窪田代官所の支配に入る。

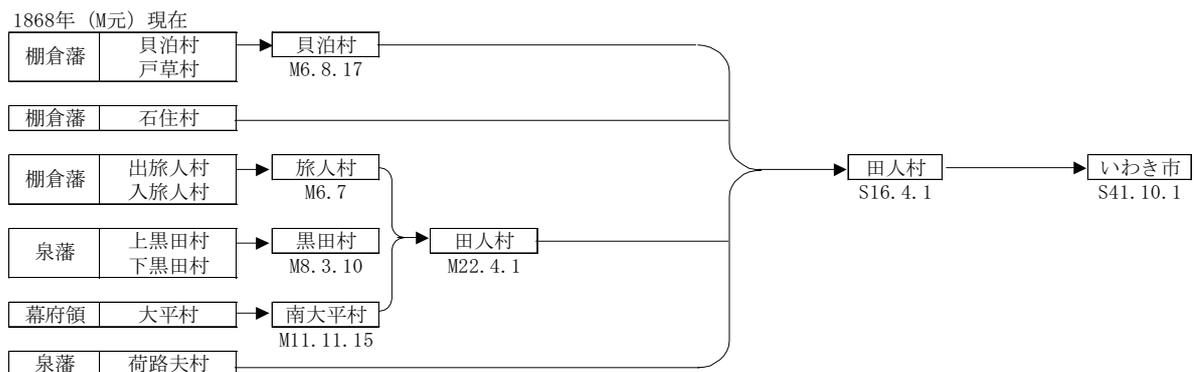
寛保2年(1742)上黒田、旅人、貝泊が棚倉藩領に、延享3年(1746)下黒田、荷路夫が泉藩領に、延享4年(1747)小名浜代官所開設で南大平が支配下に置かれ、それぞれ幕末まで続く。

田人、遠野地区でこんにゃくの栽培が始まったのは、棚倉藩主松平氏の時代(1836~1866)といわれ、明治3年には黒田村の蛭田金四郎が荒こんにゃく製造の普及と販売を始めた。

明治6年入旅人村・出旅人村が合併し旅人村、明治8年上黒田村・下黒田村が合併し黒田村、明治22年町村制実施に伴い、南大平村・旅人村・黒田村が合併し田人村になり、荷路夫村・貝泊村・石住村と共に四ヶ村組合を組織し、各村の財産の管理を除く他一切の公共事務を取り扱う。

(参考文献:「いわき市史」、「新しいいわきの歴史」)

※行政区域の変遷



【昭和41年(1966年)当時の田人村民の暮らし】

テレビ	1.4世帯に1台	バイク・自転車	2.4世帯に1台
電話	8.3世帯に1台	小学生	808人
ラジオ	8.6世帯に1台	中学生	495人
有線放送	1.8世帯に1台	高校進学率	38.8%
ガス	2.3世帯に1台	村会議員	18

※ 昭和40年(10月1日現在) 世帯数 1,225世帯、人口 5,744人

「たびと(1966年版)」より